

エヴァンゲリウム・カントライ

Evangeliums-Kantorei

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方

Tel. 070-2834-4304

郵便振替 00100-3-21060

「彼らは年老いてもなお 実を実らせ 青々と生い茂ります。」

(詩篇 92 篇 14 節)

飯島 勅

2021 年の年頭のみことばを求めて聖書を開いていた時、それまでも人生の大きな決断の時やいのちにかかわる病いの時にもその日その時にふさわしいみことばに出会わせてくれている「みことばの光」(聖書同盟)の1月3日の個所、表題のみことばを含む詩篇 92 篇に出会いました。

作者はまず、主に感謝することを勧めます(1a)。そしてその方法がほめ歌を歌うことであり(1b)、また、告げることである(2)と言っています。「賛美を歌うことで告げる」ということでしょう。聖書は、賛美を歌うということは告げる(告白する)ことでもあると述べていることに気がつかされます。

また、それがなされる「時」については、朝と夜ごと(2)に、そして、その内容については、朝に主の恵みを、夜ごとに主の真実を、です。一日を終えた夜に、きょう一日の主の真実を告げることについては容易に理解できます。でもなぜ朝に主の恵みなのでしょう?それはこういうことのゆえなのかも知れません。朝目覚めてきょう一日の歩みを始めるとき、主はきょうも私がこのいのちを生きることを許してくださったことを知らされます。人のいのちは主の御手のうちにあり、主の恵みだからなのでしょう。

私は、先に書きましたが過去にいのちに関わる大きな病いのゆえに2度の手術を経験しながらも今のこの歳に至っています。このことは私にとってはとても不思議なことなのです。ダビデはこのように言っています。「いのちは(主の)恩寵のうちにある」(詩篇 30 篇 5 節)。恩寵とは「主の心」の意味であり、ダビデがきょうを生きているそのいのちは主の心(みこころ)によるということです。まことに私のこのいのちは、私が何者であるからではなく、主の恩寵のうちであり、主の恵みのゆえであるのです。

3 節には、この作業には楽器も用いられていることが記されています(新改訳聖書第3版は楽器は3種類なのですが、2017年訳は2種類になっています。)

そのようにして日々神と共に生きる者は主の家に、神の大庭にて(13)、なつめ椰子の木のように萌え出で、レバノン杉のように育ちます(12)。このことは、神を信じる私たちが神の教会にこそ生きる者であることを示しているでしょう。

年老いてもなお私たちは神の教会とのかかわりの中で実を实らせ、青々と生い茂るのです。そして、そのようないのちに生きる者がなす賛美の告白こそ、「主は正しい方。わが 岩。主には偽りがありません。」であるのです(14, 15)。

(日本バプテスト教会連合 拝島バプテスト教会協力牧師)

『災いの時と賛美②』 ～17世紀のドイツ～

石川 由紀子

今回のテーマは「17世紀のドイツ」です。ドイツを荒廃させた三十年戦争は1618年に始まりました。長い期間の戦争に加え、中世から断続的に現れるペスト等の疫病、傭兵による略奪、飢饉などがありました。この間にドイツの人口が20～30%減ったと言われていています。この困難な時期を生きた有名なコラール作者（歌詞）といえばパウル・ゲルハルト（1606-76）が挙げられるでしょう。11才の時に開戦。終戦後はベルリン聖ニコラウス教会の執事やリュッベンの牧師も務めました。

ゲルハルトは生涯に134もの詩を作りました。日本語にも訳されています。ラテン語の歌詞をもとに作った「血潮したたる(元の歌詞は12節)」、「まぶねのかたえに(同9節)」。教会合唱曲集Ⅰの中にある「主の御名をほめたたえよ(同10節)」も彼の作品です。1つのコラールの節数がとにかく多い。イザヤ書53章3-7節をもとに作られたコラール「Ein Lämmlein geht und trägt die Schuld (8節EKG)」をドイツ語聖書(1545年)と比較すると、文字数が聖書の5～6倍にもなります。世を贖うために耐え忍び、十字架にかかってくださった小羊への愛を、有りつ丈のことばで表現します。父なる神と御子の対話（創作）もあります。最も素晴らしい宝はイエス・キリストの血潮であり、御国に招き入れてくださる方です、と高らかに歌い上げています。

三十年戦争の後の精神的復興活動として、ゲルハルトはコラールを書きました。その作風は17世紀初めの個人的、主観的礼拝書を典拠にしていることからくるようです。彼の作品は17世紀の後期、敬虔主義が盛んになって（彼が亡くなるころ）初めて、正規の教会の礼拝で用いられるようになりました。彼のスタイルは現代の教会の歌にも影響があるように思います。

ゲルハルトより20才ほど年上であったハインリッヒ・シュッツ（1585年-1672年）は、ドイツプロテスタント音楽の礎を築いた作曲家です。ドレスデンの聖十字架教会のカントールを務めました。彼が33才の時に三十年戦争が始まりましたが、戦争以外にも困難なことが多くありました。40才の時に妻を亡くしたために、3歳と1歳の二人の娘を自分の元から手放し、亡くなった妻の母に託しました。たぐいまれな温かい幸せな結婚生活であったといいますから、悲しみはどれほどであったでしょうか。長い戦争の影響による度重なる給料の未払いなど、経済的困難もありました。

現存するシュッツの作品は約500曲。ほとんどは宗教曲で題材の多くは聖書です。有節賛美歌の形をしたものとしてはベッカー詩篇歌集があります。妻が亡くなった後の1年間、詩篇の作曲に没頭すること事で大いに慰めを得ました。シュッツの代表的な曲集「宗教合唱曲集 Geistliche Chormusik 1648」は、ドイツにおける最も重要なモテット集です。「それ神は世を愛し／ヨハネの福音書3：16」「涙とともに種蒔く者／詩篇126：5～6」「今から後主にあつて死ぬ者は幸いである／黙示録14：13」等が有名でしょうか。み

ことばの意味の深さが音楽言語によって表現されている、極めて優れた作品です。この曲集の中に使われているコラールがあります。「Was mein Gott will g'scheh allzeit SWV392」EKG280 番(御神のみむねは/讚美歌第二編 98 番)です。g'scheh→geschehen は聖書では「実現する」「起る」「成就する」などの意味で使われています。神学生時代、フーガ(バッハオルガン曲)のテーマを探した際に出会ったコラールですが、本当に素晴らしい歌詞だと思いました。

私の神のみこころは常にそのとおりになります 主のみこころ、それは最善です

主は、神を堅く信じている者を助ける備えがあります

主は敬虔な(EKG)/誠実な(EG)者を苦しみから助け この世を限りなくあわれんでください

神に信頼し、主を礎とする者は誰でしょう 神はその人を決して見捨てることはありません(私訳)

シュッツはこの1節を、二声の歌と器楽合奏の形に作曲しています。一人のことばをもう一人が追いかけていく形で、みこころは常にその通りになる、と力強く歌い上げます。創造の始まりから今に至るまで、みことばはそのとおりに成就しました。そしてこの先も永遠に、すべてみことばの通りになる、と高らかに宣言します。曲の最後で「決して」をひときわ高く歌わせているのが印象的です。ご自身のことばに忠実な神に、私たちが見捨てられることは決してないのです。みことばを愛しみことばに作曲し続けたシュッツが、このコラールを選んだ理由が分かるような気がします。

同じコラールが、バッハ作曲マタイ受難曲の中で、ゲッセマネの祈りの直後に使われています。どのような経過を辿ったのかは調べられませんが、歌詞の一部がシュッツと異なっています。

“世を限りなくあわれんでくださいます” → “ふさわしく懲らしめを与えます”(私訳)
罪人にはあわれみを、メシアには身代りの刑罰を与えた神のみこころを表しているのでしょうか。いずれにせよ、みことばの素晴らしさを味わってこそ、このコラールの意味がよく理解出来るのだと思います。

アダムが罪を犯して以来、この世界には苦しいことが絶えませんが、恵みも満ちあふれています。カントライはこれからもみなさまの教会とともに伝道する喜びに与りたいと願います。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。

忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

テモテへの手紙第二4:2

(日本同盟基督教団追浜聖書教会員)

参考文献: ニューグローブ世界音楽大事典



新型コロナウイルスの感染防止のため、集まって賛美の練習ができなくなりましたが、Zoomによる個人練習を続けています。それぞれ個人のレベルにふさわしい練習が与えられていること、今この時にしかできないことを教えていただき、感謝なことで覚えます。また、月に一度Zoomでの集会をしています。12月4日には、個人練習の発表の場として、Zoomでクリスマスミニコンサートをいたしました。全員が「みことばのうた」を1曲ずつ賛美しました。みことばを歌うことの難しさ、大切さを再認識するときとなりました。春に次回のコンサートを予定しています。



事務局から

☆ 活動予定

2021年6月5日(土) 前橋キリスト教会演奏会
12月4日(土) 九十九里教会クリスマスコンサート

* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金 (2020年12月-2021年2月) ()内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。
(敬称略)

<賛助会>

(教会) 川越聖書教会、グレースコミュニティ、前橋キリスト教会 (2)
宇都宮聖書バプテスト教会、東京聖書教会 (3)、浦和福音自由教会 (3)
北栄キリスト教会 (3)、拝島バプテスト教会 (2)
(個人) 高橋和江、今野蓉子、谷田みどり、小林伸二、飯島勅・千雍子 (2)
高張美恵子 (3)、佐々木陽子、中山明美、田中玲子、矢吹徹、大嶋清

<献金>

(教会) 四街道教会、九十九里教会、湘南ライフタウンキリスト教会 (3)
(個人) 団員、匿名

編集後記

今の私たちは大きな不安を抱え、日々の変化に敏感になっています。永遠に立つみことばにより頼み、それゆえの賛美がささげられますようにとお祈りいたします。来年度の計画が立てられる時期になりましたが、主のご計画が為されますように、私たちが祈り求めていきたいと思えます。「人の心には多くの思いがある。しかし、主の計画こそが実現する。」箴言19:21 (事務局)

